

開成館

大政奉還150年・明治維新150年

再発見

幕末維新博に向けた観光振興における開成館の歴史的重要性について

平成29年 5月1日

九反田・開成館跡に眠る歴史には、知れば知るほど凄いものがある。

しかし

碑しかないから、価値がないと見る人もいる。

たとえ、碑しかないとしても歴史的価値まで変わる訳ではないはず。

何しろ、開成館の歴史は

経済産業省から（2008年）、日本の「近代化産業遺産群」にと
お誘いがあったほどの歴史です。

大政奉還により

鎌倉幕府以来約700年も続いてきた武士の時代が終わったのです。

この日本の歴史的大変革は

土佐藩の建白書によって正式に成立したものです。

土佐人にとって、いちばん大切にしたい歴史です。

大政奉還や明治維新、自由民権運動について誇れるところは

全国にそんなにはないはずですよ。

そのルーツが開成館にあるのです。

今回の幕末維新博を機に

このことをきちんと土佐人の精神のエネルギー（自信や誇り、郷土愛等）に
繋げていくことが大切ではないでしょうか。

まずは

天気のいい日に、九反田・開成館跡を訪ねてみよう。

城下町の海の近くの鏡川の河口沿いに

こんなにもビッグな歴史の故郷があったとは…。

開成館

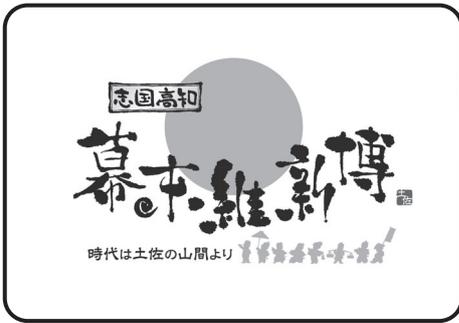
大政奉還150年・明治維新150年

再発見

幕末維新博に向けた観光振興における開成館の歴史的重要性について

もくじ

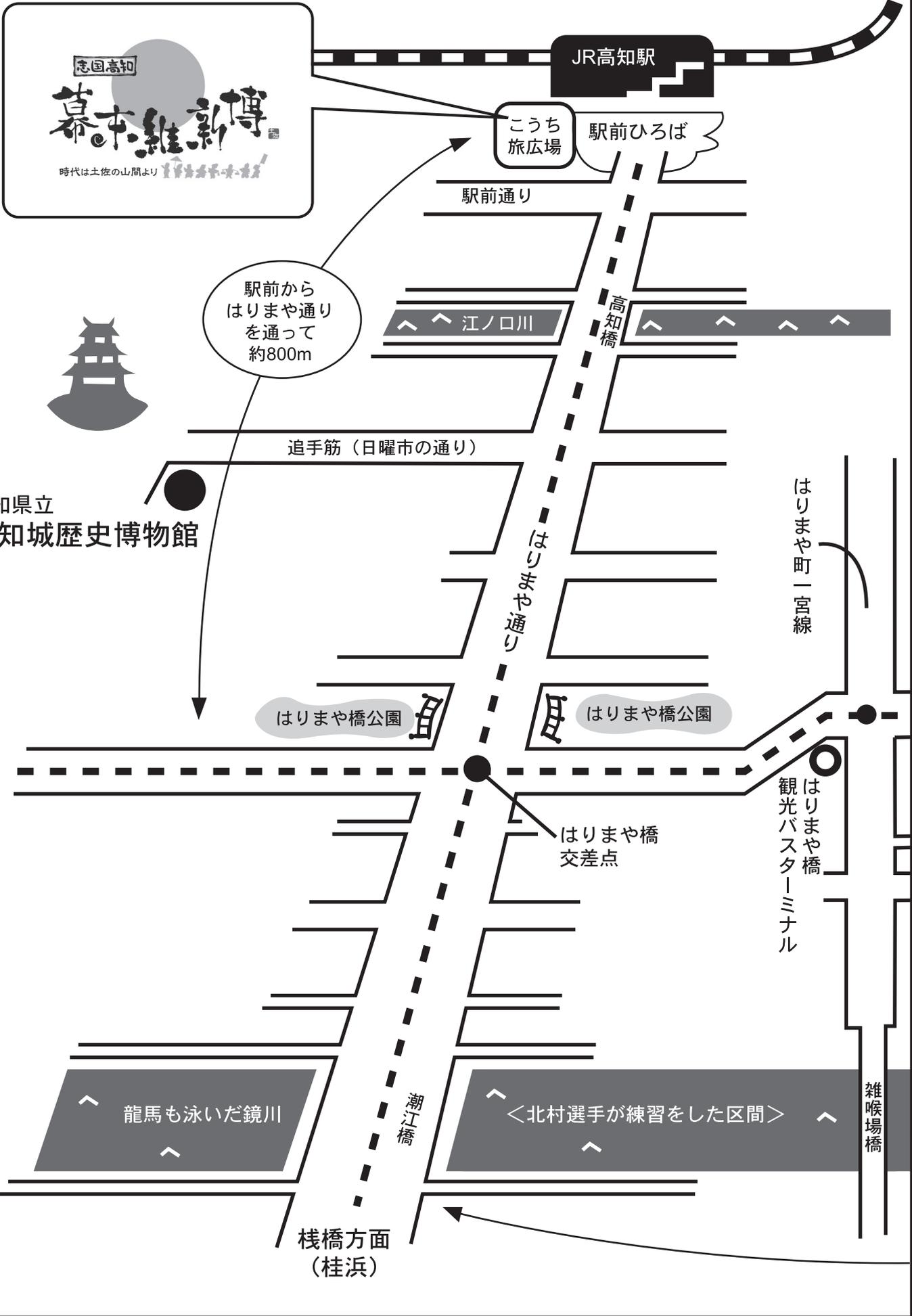
九反田・開成館跡周辺マップ	2
写真で観る開成館	4
開成館跡へ行ってみよう	11
東九反田公園＝開成館跡の解説板から	12
周辺の公園にある案内板から	14
高知の城下町の成り立ち	18
開成館あれこれ	20
ちょっといい話し	26
何とかしたいね	30
なぜ、坂本龍馬と後藤象二郎は会ったのか	34



高知県立
高知城歴史博物館

駅前から
はりまや通り
を
通
っ
て
約800m

い
の
方
面



九反田・開成館跡 周辺マップ

開成館跡（東九反田公園）

海援隊の坂本龍馬は日本の夜明けをつくり、土佐商会の岩崎弥太郎は日本経済の夜明けをつくったといわれている。

薩長同盟に尽力した坂本龍馬と土佐藩重役の後藤象二郎の出会いが、開成館があったからこそである。

2人は大政奉還に向けて先頭を走り、実現した。

土佐弁で日本の夜明けをつくったという坂本龍馬と岩崎弥太郎。

彼らの本社ともいえるのが、土佐藩近代化統括機関の「開成館」。

開成館の最高責任者は、後藤象二郎である。

高知へ来たら、ぜひ九反田にある「開成館跡」へお立ち寄りください。

土佐人が幕末から維新にかけて果たした功績として

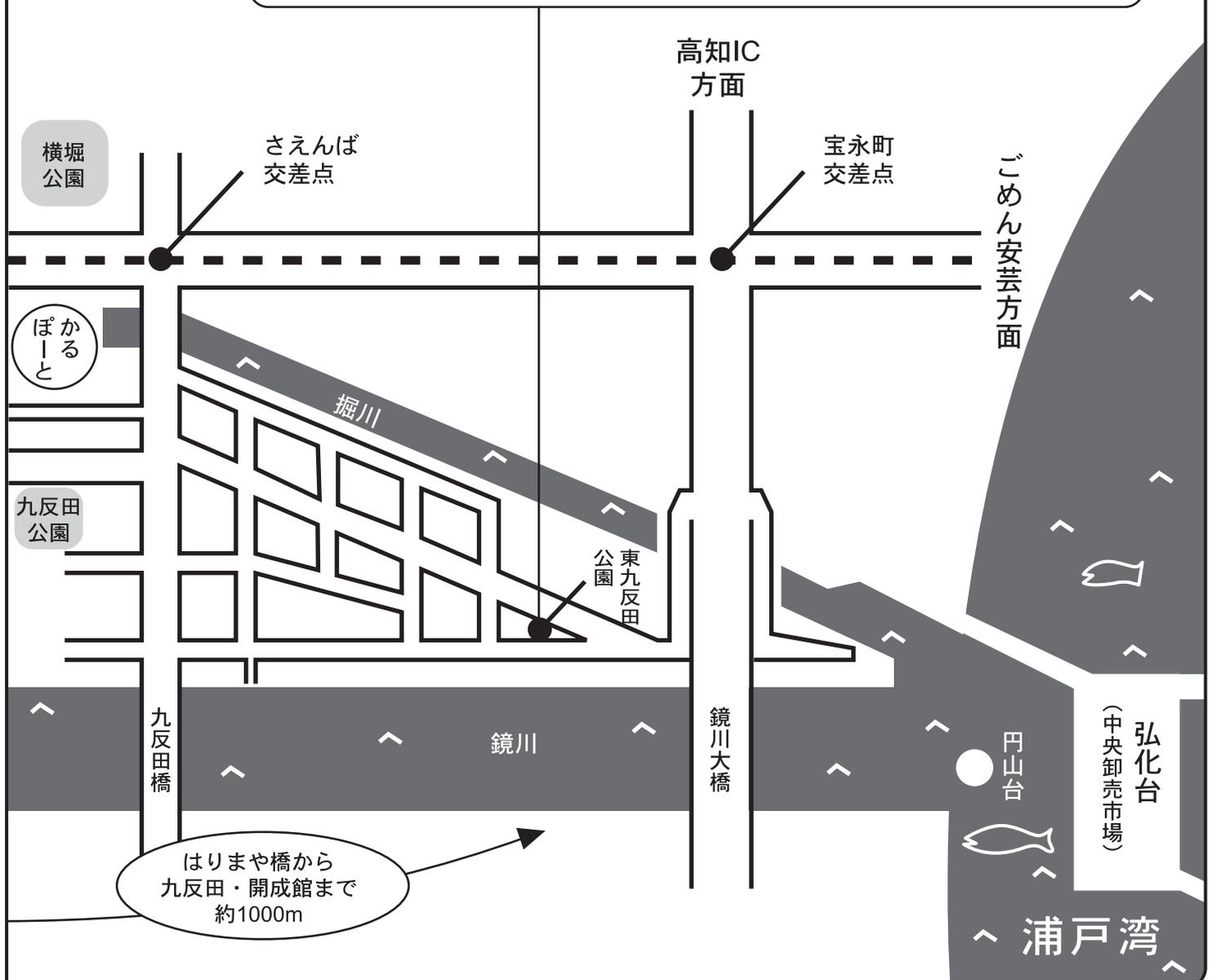
「大政奉還」「明治維新」「自由民権運動」等があります。

この歴史のいきさつは、開成館なしでは語れません。

開成館跡を訪ね、そこに碑しかなかったとしても、見上げる空の色は昔のままです。

ゆっくりと深呼吸をして、先人の活躍に想いを馳せてください。

彼らの存在がぐ〜んとリアルになってきます。



写真で観る開成館



九反田・開成館跡（鏡川河口附近／五台山展望台から）



現在（鏡川南岸から）



開成館／海南学校時代（鏡川南岸から）

高知県立高知城歴史博物館所蔵

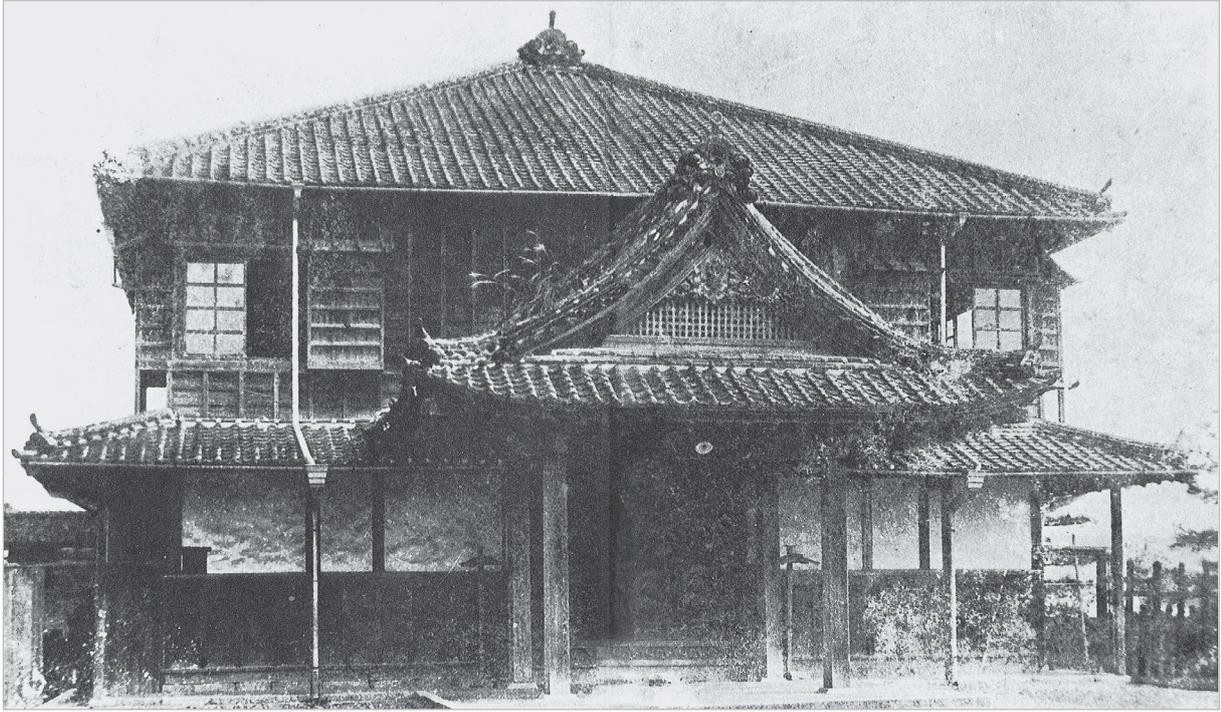


鏡川河口から、浦戸湾・桂浜・遙か大平洋を望む（ホテル日航レストランから）



←この松の木は
開成館時代のものと
関係があるのでは？
大切にしたいね。

開成館跡（東九反田公園）を俯瞰（ホテル日航レストランから）



開成館本館（海南学校時代）

「図録高知市史」より
提供（公財）高知市文化振興事業団

開成館は
＜吉田東洋の思想、山内容堂の決断、後藤象二郎の行動＞
によって創られたといえる。



吉田東洋（1815-1862）
「図録高知市史」より
提供（公財）高知市文化振興事業団



山内容堂（1827-1872）
高知県立高知城歴史博物館所蔵



後藤象二郎（1838-1897）
「図録高知市史」より
提供（公財）高知市文化振興事業団



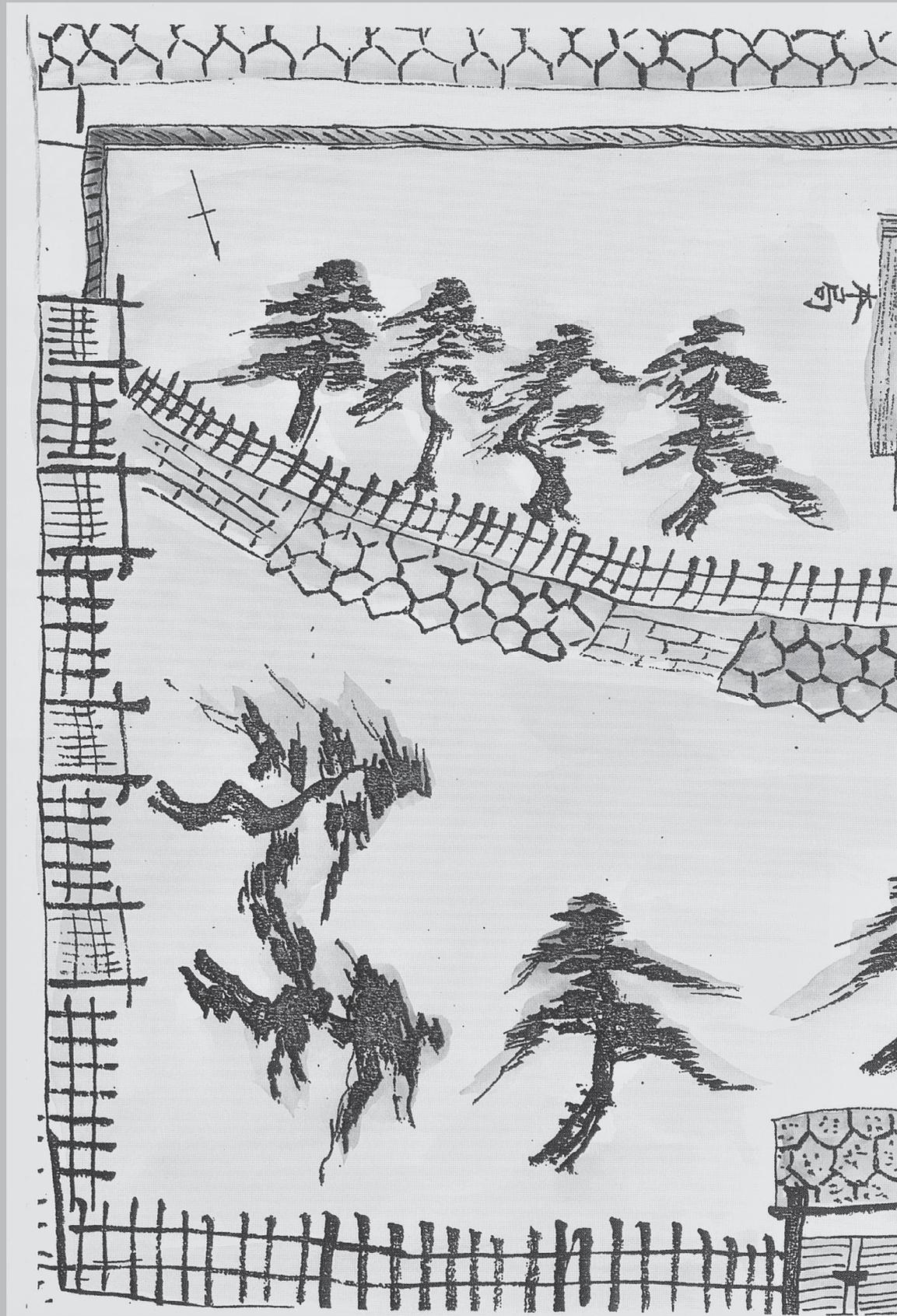
開成館跡（東九反田公園／東から望む）
手前に「開成館跡・西郷木戸板垣三傑会合之地」石柱、そして4基の解説板。
奥には「憲政之祖国」碑、右に「嗚呼不朽」碑。

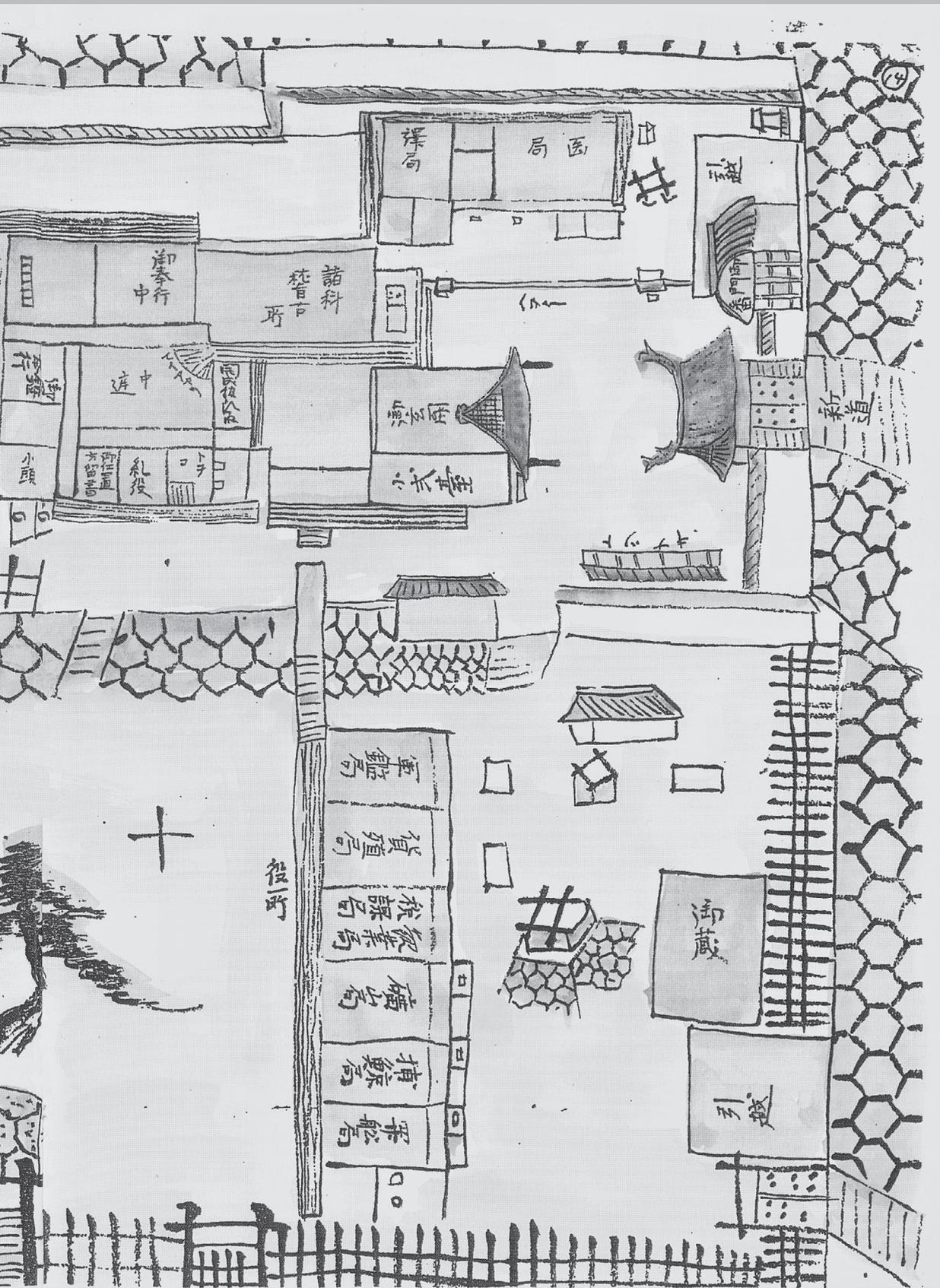
開成館
関連年表

- 1601（慶長5）：山内氏土佐入国及び高知城築城開始
- 1687（貞享4頃）：堀川開削工事（菜園場のところ繋がる）
- 1866（慶応2）2/5：「開成館」創設
- 1866（慶応2）12/：長崎に開成館貨殖局出張所として「土佐商会」設置
- 1867（慶応3）8/11：開成館にて山内容堂がアーネスト・サトウと会談
- 1870（明治3）1/24：開成館を「寅賓館」と改称
- 1871（明治4）1/19：西郷・木戸・大久保と板垣・福岡が会談
- 1874（明治7）：立志社・立志学舎創立（1876まで）
- 1878（明治11）11/5：民権派、第2回土佐洲会開催
- 1880（明治13）：海南学校分校移転、開校
- 1831（昭和6）6/1：海南、城北中学と合併移転。翌年、県立海南中学校と改称
- 1933（昭和8）：開成館本館を南国市の三和小学校に移築
- 1940（昭和15）2/：開成門を県立海南中学校に移築
- 1941（昭和16）：新田の板垣退助別邸を移築、「憲政館」と称す
- 1941（昭和16）9/27：「憲政之祖国」碑を建立
- 1942（昭和17）2/11：「嗚呼不朽」碑を建立
- 1962（昭和37）：東九反田公園整備
- 1965（昭和40）：憲政館老朽化のため取り壊し
- 1966（昭和41）4/1：高知市「憲政記念館」開館
- 1969（昭和44）：開成館本館を三和小学校から小津高等学校に移築
- 1998（平成10）1/：お小津高等学校校舎新築に伴い、開成館本館取り壊し
- 2004（平成16）：憲政記念館、老朽化により取り壊し
- 2005（平成17）：東九反田公園再整備

開成館絵図

開成館
絵図





開成館絵図（故・甲藤勇氏所蔵／高知市教育委員会・開成館から）



東九反田公園（開成館跡）



「憲政之祖国」碑



「嗚呼不朽」碑



「開成館跡 西郷木戸板垣三傑会合之地」碑

明治3年、開成館は賓賓館と改称。その翌年、賓賓館で薩長土の巨頭会談が行われ、薩長土の3藩から朝廷へ御親兵（後の近衛兵）を献上するという約束がされた。

これは、維新史上重要な政策決定です。新政府は政府の決定に対し、諸藩に不満があったとしても、薩長土の決定を先行させることにより、反論が出にくい状況づくりをしたかったのです。大政奉還から、版籍奉還、廃藩置県へと続くのです。つまり、この会談が日本近代化会談であったのです。



開成門（高知県立小津高等学校）

開成館跡へ行ってみよう

堀川から
1つめの通り



堀川から
2つめの通り



堀川から
3つめの通り



堀川から
4つめの通り



東九反田公園＝開成館跡の解説版から

土佐精神集積鍛錬の聖地

この地には、幕末の開成館設置から始まる土佐の近代の歴史が積み重なっています。開成館は、西洋文明の導入をはかり、土佐藩近代化の礎となる活動をおこないました。

さらに、維新三傑と土佐藩首脳との会談の舞台ともなりました。

明治初頭には、立志社・立志学舎が創立されて自由民権運動の発祥の地となり、その後、海南学校が置かれ多くの人材が巣立っていきました。

昭和には、板垣旧邸が移築されて「憲政館」となり、あわせて「憲政之祖国」碑が建立され、土佐精神を今日まで顕彰してきました。

東九反田公園の整備にあたり、ここに解説板を設置して、この地の歴史と先人の足跡を伝えます。

2005（平成17）年10月1日

高知市教育委員会
[2017（平成29年）3月1日改修]



開成館と「三傑会合之地」

幕末激動期の慶応2年、山内容堂の後ろ盾を得た後藤象二郎が中心となり、土佐藩の殖産興業・富国強兵を進めるため、開成館を設立しました。

開成館は、軍艦局・貨殖局・勸業局・火薬局・医局・訳局、大阪・長崎出張所（土佐商会）等を設置し、専売品の売りさばき、艦船・銃砲の輸入などをおこない、土佐藩の産業・軍事力の向上や、技術教育・翻訳など西洋文明の導入に成果をあげました。これらの活動には中浜万次郎、細川潤次郎・岩崎弥太郎らが参画しています。

明治3年、開成館は「賓賓館」と改称され、外来客を接待するために使われてきました。

翌年、維新三傑の西郷隆盛・木戸孝允・大久保利通を迎えて、板垣退助・福岡孝弟との薩長土首脳会談がおこなわれ、三藩から朝廷へ御親兵（のちの近衛兵）を献上するという維新史上の重要な政策を決定しています。



立志社と海南学校

明治6年の政変で政府参議を辞した板垣退助を中心とする土佐士族は、翌年立志社と立志学舎を設立、明治9年までこの地で活動しました。

立志社は、自由民権運動を代表する結社として全国にその名をとどろかせ、立志学舎は、新思想を教育して多くの民権家を育てました。

明治11年には、民権派が地方自治を求めて開催した第2回土佐州会の会場にもなっています。

明治9年になると、山内家が東京で経営していた海南私塾の分校が鷹匠町から移転し、後に本校と合同して海南学校に発展、質実剛健の校風で知られました。

その後、海南学校は明治22年に県立中学海南学校、昭和7年には県立城北中学校と合併して県立海南中学校となりました。現在、その校史は県立小津高等学校に引き継がれています。



憲政館と「憲政之祖国」碑

昭和11年、土佐政界の長老たちが大松俱樂部という親睦団体を創立しました。

昭和16年に大松俱樂部は、当時料亭として使われていた、板垣別邸を移築して「憲政館」と命名し、さらに「憲政之祖国」碑、「嗚呼不朽」碑を建立して、我が国の憲政創設に果たした土佐の功績を後世に伝えようとした。

これらの事業の中心で活動した水野吉太郎は、伊藤博文を暗殺した朝鮮独立運動家・安重根の国選弁護人を努めた人物でした。

戦後、憲政館が老朽化したため、板垣会や土佐史談会の陳情もあって、高知市は昭和41年高知市憲政記念館を新築開館し、憲政資料を収集、展示しました。

その後、高知市憲政記念館も老朽化が進んだため、平成16年その機能を高知市立自由民権記念館に移して取り壊し、新たに史跡公園として整備することとなりました。



周辺の公園にある案内板から：1＝九反田公園



九反田公園案内板
かるぼーと南側。

七町と七恵比寿

はりまや橋を中心とした高知市の繁華街の中には「七町」と呼ばれる土佐藩の経済を支える役割を持っていた町が集まっていました。北から順に、蓮池町・種崎町・浦戸町・朝倉町・弘岡町・掛川町・唐人町です。はじめの5つの町は、現在でも高知市内及びその周辺部に地名が残る、中世に栄えた城下町や市場町の人々が移住した町です。

掛川町は、山内一豊が遠州掛川（現在の静岡県掛川市）から土佐に移ったとき、武器などを作る職人が一緒に移住した町です。

唐人町は、土佐の旧領主長宗我部元親が朝鮮出兵の時に土佐に連れ帰った朝鮮半島の人達に、山内氏が豆腐商の特権を与えて住ませた町です。

（各町の詳しい町名由来は「旧町名案内標識」をご覧ください）

商売繁昌の神様として知られる「恵比寿神社」が各町ごとに祀られ、中には弘岡町のように神社と一緒に移った町もありました。

藩政時代には、城下町の中に「七恵比寿」と呼ばれた7つの恵比寿神社があり、町内の人々によって大切に祀られてきました。

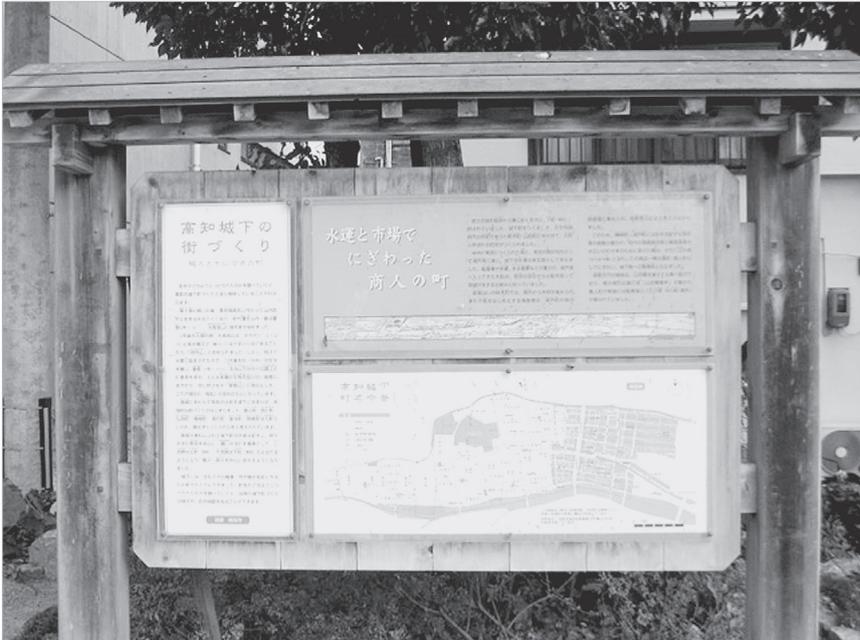
また、種崎町には、城下町に3カ所開かれた魚商いをする「魚の棚」が置かれ、その中でも唯一日覆いを許されていました。魚の棚は、今もはりまや橋商店街北側にあります。

九反田界限には、水運の便がよいこともあり、土佐藩の卸米蔵や幡多蔵などの産物収蔵施設がつくられ、近代になって卸米蔵跡地に高知市中央卸売市場（現高知市文化プラザ・通称かるぼーと）が開かれました。

その南側には石田三成の娘を祀ったと伝えられる九反田地蔵尊が建っており、参拝客が絶えません。

このように、七町や九反田界限から発展した高知市中心部は、藩政時代から商業・経済の中心地であり、昔も今も市民生活を支えている地域であることがわかります。

周辺の公園にある案内板から：2＝横堀公園



横堀公園案内板

新堀川東岸隣接
電車通り北側、さえんば
商店街西側。

水運と市場でにぎわった商人の町

武士の住む郭中から東に続く町並は、下町（東町）と呼ばれていました。

城下町をつくるとき、長宗我部時代の市町であった新市町、山田町にあわせて、七町と呼ばれる町並がつくられました。

中央に東西につくられた堀と、南北の堀が合わさって浦戸湾に通じ、城下の水運の表玄関として栄えました。船着場や米蔵、水主屋敷などが置かれ、浦戸湾へ入ってきた大船は、西孕の沖合から小舟を使って荷揚げをする仕組みになっていました。

新堀沿いの木材町では、領内から木材が集められ、また干魚をはじめとする海産物は、浦戸町の南の納屋堀に集められ、特権商人により売りさばられました。

このため、種崎町・浦戸町には町を支配する惣年寄（そうとしより）の屋敷が置かれ、初代の播磨屋宗徳（はりまやそうとく）と櫃屋道清（ひつやどうせい）がお互いの行き来のために架けた橋は、のちに公の橋（はりまや橋）となり、この周辺一帯は湊町・商人町としてにぎわい、城下第一の繁華街となりました。

参勤交替の順路は、山田橋を渡って北東へ伸びており、橋の南の広場には「山田橋番所」が置かれ、農人町の東端には船着場と「松ヶ鼻（三ツ頭）番所」が置かれていました。

* 高知の惣年寄は、門閥・資産そして徳望のある町人の中から選ばれ、5人扶持を与えられた。

世襲制で、播磨出身の播磨屋と平野屋、紀伊出身の櫃屋（ひつや）、そして辰巳屋と土種屋（つちたねや）の5家の中から2-3名が選ばれた。

町政は町奉行の監督の下、町会所で執り行われ、惣年寄の下に町庄屋・年寄・総組頭などが置かれた。

町庄屋は最寄りの2-3町を1区に編成し15区にまとめた区域に1人ずつ置かれた。

年寄（老と書かれる事も）は庄屋を補佐する者で、五人組の組頭の中から住民代表に選ばれた総組頭が町運営に携わった。

周辺の公園にある案内板：3＝松ヶ鼻番所（三つ頭）



松ヶ鼻番所案内板
浦戸湾から高知城下に入る
堀川の入口。
堀川沿いにある長い公園の
東端にある小広場。

松ヶ鼻番所

松ヶ鼻番所は、高知城下三番所の1つです。松ヶ鼻は、堀川沿いに植えられていた松並木の突端に位置していたので、この地名がつけました。また、この辺りは堀川・鏡川・潮水（浦戸湾）の水が交わることから、三つ頭とも呼ばれました。こうした地理的条件であったことから、藩政時代から水上交通の要衝として栄えました。

東は物部川流域、西は仁淀川流域の産物が野中兼山によって整備された用水路網によって浦戸湾に集められ、さらにここ松ヶ鼻を通過して城下町の七町方面まで運ばれました。

ここに置かれた番所は、主にこうした水上交通を取り締まるためのもので、明治期以降は水上警察署も置かれました。また、浦戸湾内を走る巡航船も付近で発着し、松ヶ鼻は高知の海の表玄関として賑わっていました。

城下町を読み込んだ「高知廻り歌」も、「高知松ヶ鼻・番所を西へ行く…」という歌い出しで歌い継がれてきました。

安政2年（1855）、駆け落ちしながらも捕らえられた純真とお馬が、ここでさらしの刑に処せられたときには、多くの見物人が集まったと伝えられています。

鏡川大橋の通りを東に渡った界限は、幕末から明治にかけて開発され、明治期以降は有名な料亭が建ち並び、大いに賑わいました。明治44年（1911）には土佐電気鉄道株式会社の電車路線が新たに整備されたほどでした。

このように、河川や堀川を中心に水の都として発展してきた高知城下町の表玄関であった松ヶ鼻界限も、現在では鏡川大橋に代表される大きな道路が通る地区として賑わっています。

周辺の公園にある案内板から：4＝はりまや橋公園



はりまや橋公園案内板
はりまや通り（電車通り）
をはさんで東西に長い公園。
西側にある公園。

はりまや橋

「土佐の高知のはりまや橋で、坊さん、かんざし買うを見た」のよさこい節で有名。

「はりまや橋は、江戸時代初期、堀川を挟んで商いを営んでいた播磨屋と櫃屋がお互いに行き来するために架けた私設の橋がその始まりとされています。

周辺の賑わいととも、のちに公共の橋となり、橋の両側には十九文屋と呼ばれる小店などが並んでいました。

五台山竹林寺の坊さんが思いをかけた人のためにかんざしを買ったのは、橋の南詰東側にあった櫃屋という小間物屋であったと言われています。

戦後に埋め立てられた堀川は、平成10年のはりまや橋公園の改修にあわせて再現され、江戸時代のはりまや橋を再現した朱色の欄干の太鼓橋が架けられました。

それに加え、明治期に実際に使われていたものを再利用した鑄鉄製の橋、自然石で造られた欄干を持つ昭和25年（1950）に架橋された現在の橋と合わせ、ここには時代とともに移り変わった3本の橋が仲良く並んでいます。こうして、堀川はウッドデッキ沿いに四季折々の花が咲く、親しみやすい水辺に生まれ変わりました。

付近の商店街には全国的にも珍しい木造アーケードがあり、公園と一体となったイベントも開催されているなど、商店街を中心に周辺一帯を含めた街めぐりも楽しめます。

公園の南側に位置する、はりまや橋交差点では、花壇などの整備により、四季を飾る鮮やかな草花が街にうるおいをもたらしてくれます。観光の途中にひと休みしたり待ち合わせをするのに、よく利用されています。

また、はりまや橋東側のビルの壁にからくり時計が設けられており、9時から21時の間の各正時によさこい節に合わせてからくりが繰り広げられます。（天候等により、休止する場合があります。）

高知の城下町の成り立ち

この地図は、高知城を中心とした藩政時代の城下町と現在の高知市を重ね合わせています。慶長6年（1601）、高知城の築城開始とともに、城下町の建設が始められました。

お城を中心とした武家の住む郭中は、南の鏡川と北の江ノ口川との間、東は堀詰（地図の新京橋付近）、西は升形までの区域に設定されました。

町人街は、郭中を挟んで東西に設けられました。

郭中の西側には、武家の奉公人が多く住んでいたため北奉公人町・南奉公人町などの町名が見られ、東側のはりまや橋界隈には、移住者の出身地を示す、掛川町・堺町・京町や、商工業者の職業名をとった細工町・紺屋町などがあります。

高知城下 町名今昔



SS

町人町（上町／郭中への奉行人が多かった）

郭中

高知城下の街づくり

町名がどのようにつけられたかを調べていくと、高知の城下町づくりと深く関係していることがわかります。関ヶ原の戦いの後、長曾我部氏に代わって山内氏が土佐を治めることになり、初代藩主山内一豊は慶長6年（1601）、大高坂山に城を築き始めました。

2年後の入城の時、大高坂山は、北の大川（江ノ口川）と南の潮江川（鏡川）にはさまれた地であることから「河中山」（こうちやま）と改められました。

しかし、相次ぐ水害に悩まされたので、二代藩主は「河中」の文字を嫌い。慶長15年（1610）、五台山竹林寺の空鏡上人に意見を求め、上人は本尊の文殊菩薩の高い知恵にあやかり、同じ呼び名の「高智山」に改めました。これは現在の「高知」の地名のもとになっています。

地図のように、ほとんどの街区は現在よりも藩政時代の方が大きく、その中央には水路が流れているところが多くありました。

城下町には、水路で区切られた細長い町が数多くつくられました。

歴史の道沿いには、藩政時代の名残りがあちこちに顔をのぞかせています。よく観察してみてください。



「高知城下町名今昔」より
 提供 高知市地積調査課

郭中

町人町 (下町/職人、商人が多かった)

築城にあわせて各地の住民を城下に住まわせ、本格的な町づくりがはじまりました。

唐人町・掛川町・弘岡町・種崎町・浦戸町・蓮池町・朝倉町は七町といわれ、もっとも早くつくられた町と考えられます。

築城が進むにつれて城下町の区域は拡大し、武士の住む郭中(かちゅう)を中心に、鏡川の流れを基準として、上流側は上町(西町)・下流側は下町(東町)と呼ばれるようになり、下町は職人・商人を中心に栄えるようになりました。

城下には、住む人々の職業、寺や橋の名前にちなんだ町がたくさんできました。

町名がどのようにつけられたかを調べていくと、当時の城下町づくりの様子や、町の物語を知ることができます。

開成館

- ・慶応2年から同3年7月までの開成館の決算書によると、42万6千8百51両となっている。軍艦・商船の購入費31万7千9百両余、鉄砲弾薬費4万3千2百22両…とあるように、軍艦・商船や武器購入が主である。
この時の船舶や銃砲が、西南雄藩と肩を並べることになり発言力も増し、大政奉還に向けて先頭を走ることでもできたといえる。
また、その後の戊辰戦争でも大きな役割を果たしている。
但し、開成館には、9万5千両余の借金があり経営は大変だったようである。
- ・藩には、何とんでも長崎貿易を通じて西洋文明も一緒に取り入れていこうという強い思いがあった。その現れを、訳局や医局に見ることができる。
特に、訳局は洋書の購入や翻訳だけでなく、がやがて興ってくる自由民権運動への架け橋になったといわれている。
- ・土佐商会は、慶応2年12月23日、長崎の浜町の邸宅を3000両で購入し、開成館貨殖局長崎出張所「土佐商会」となる。
外国との貿易交渉があるため土佐藩士を派遣。
当初は、後藤象二郎が自ら長崎に行って活躍していたが、後に岩崎弥太郎の登場となる。
坂本龍馬の海援隊も加わり、土佐藩にとって、長崎の土佐商会が大きな位置を占めるようになっていった。

取り扱い商品

- ・長崎貿易開始のころから「樟脳」が重視されていた。
土佐和紙、鯉節、鯨油、がこれに次いだ。椎茸、木くらげ、桂根、茶、しゅろ毛、蜜臘、干海老、するめいか、等の22余品目に統制がかかる。
これらの特産品は藩外への自由搬出を禁止し、勸業局が買い上げ、販売を貨殖局が行っていた。
年によっては、80万両にも達することがあったといわれている。

岩崎弥太郎

- ・長崎赴任：慶応3年3月13日。11月28日、正式には「開成館貨殖局商法担当」となり、格式も留守居組に進み、上士クラスに出世。

開成館
あれこれ 2

品名	代価	荷主	購入年月日	取扱人
ライフル1100	一分銀13000斤	普商キニフル	慶応2・3	浜田権兵衛、中平弥平 後藤象二郎、由比畦三郎 高橋勝右衛門
汽船パンキー（・木）		英商オールト商会	同2・12	
同 溪・哥（空蟬）	70,000ドル	普商アーレン	同	同
同 兵庫（胡蝶）		英商キニフル	同	同
胴乱 600 帯皮付	洋銀15万5千枚	普商オールト	慶応3・1	高橋勝右衛門
小銃 500挺		英商キニフル	同	
汽船朱林（夕顔）	洋銀1万3千5百枚	英商オールト	同	後藤、由比、高橋勝右衛門 高橋勝右衛門
帆船カフチーフ（羽衣）		同	同3・3	
大砲10、小銃20	15,000ドル	蘭商シリンドウ	同	同
帆船セイボルン（横留）			同3・6	
砲艦南海（若紫）	75,000ドル	英商コロウエル	同	前年11月後藤上海にて契約
帆船オーサカ（乙女）	17,000ドル	英商オールト	同3・7	坂本龍馬周旋
ライフル1300挺	18,875両	英商ハットマン	同3・8	
小銃200挺	1,200両		同	長崎用達、西川易二
小銃580挺		蘭商コロウエル	同3・11	
小銃100挺	1,825両		同3・12	西川易二
小銃200挺		蘭商ポーレンス	同	
元込銃80挺	1,825両		同	岩崎弥太郎
エンピール500挺	6,250ドル		同	西川易二
			同	同

開成館 あれこれ 3

開成館の変遷

1866
(慶応2)

1 「開成館」
(土佐藩近代化の統括機関)

「開成館」は、土佐藩が財政難で反対のある中、
非常な決意で建設。
明治維新推進の主役、「薩長土肥」の仲間入りをし
「大政奉還」実現に貢献。



1870
(明治3)

2 寅賓館 (いんひんかん)
(迎賓館)

明治になり藩政機構がかわり「寅賓館」(迎賓館)
となる。
薩長土の首脳会談が行われた歴史的場所である。
(西郷、木戸、大久保、板垣、福岡)



1874
(明治7)

3 立志社・立志学舎
(自由民権運動の拠点)

山内家から借り受け
自由民権運動の組織(拠点)と、自由民権運動家
育成の学校を開設。



1880
(明治13)

4 山内家の海南私塾
(海南学校)

山内家の私塾「海南私塾」分校の移転・開設。
(後に海南学校、小津高等学校に発展)



1941
(昭和16)

5 憲政館 | 憲政の祖国 | 嗚呼不朽
(大松倶楽部) (大松倶楽部) (大松倶楽部)
(1941) (1942)
1965老朽化撤去

土佐政財界の長老たち(大松倶楽部)が、
明治初年に板垣退助が容堂公から贈られ
民権運動家たちで賑わった、潮江新田の
別邸を開成館跡に移築し「憲政館」と命
名。憲政の祖国、嗚呼不朽の碑を建立。



1965
(昭和40)

6 高知市
「憲政記念館」建設
1966年4月 / 開館
2004撤去

運営関係者等の相次ぐ死亡と、南海地震
による被害等により荒廃がすみ撤去。
高知市は、板垣会や土佐史談会等と相談
し「憲政記念館」を建立。
(開成館の再現でなく、また図面も残してい
ないので歴史的価値を失う)

2005
(平成17)

7 2005 東九反田公園として整備



2009
(平成21)

「九反田・開成館をもっと知ろう会」発足

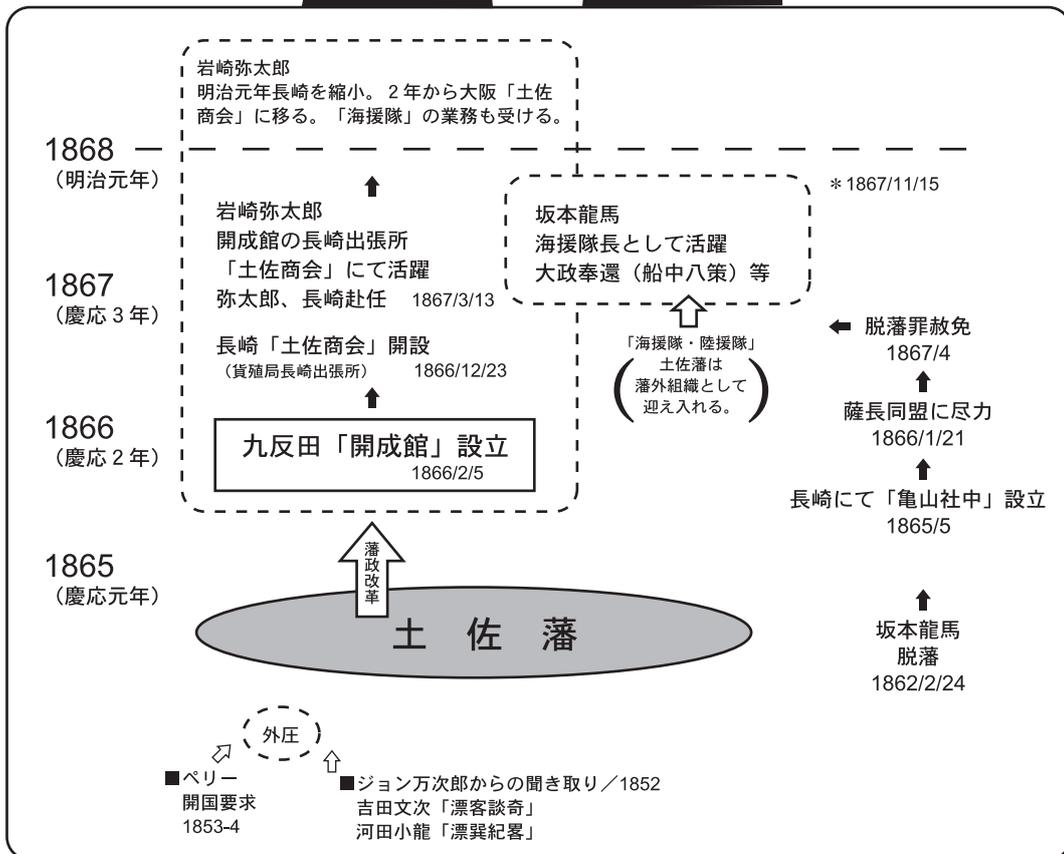
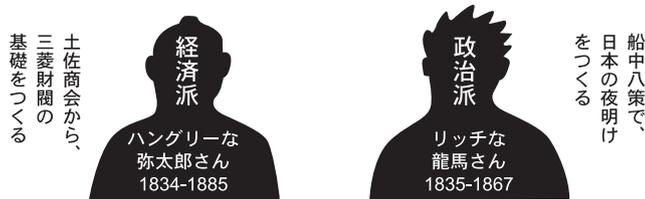
坂本龍馬の海援隊は、

龍馬の脱藩罪が許されてから、亀山社中を改め「海援隊」となり土佐藩の〈藩外組織〉として誕生しています。

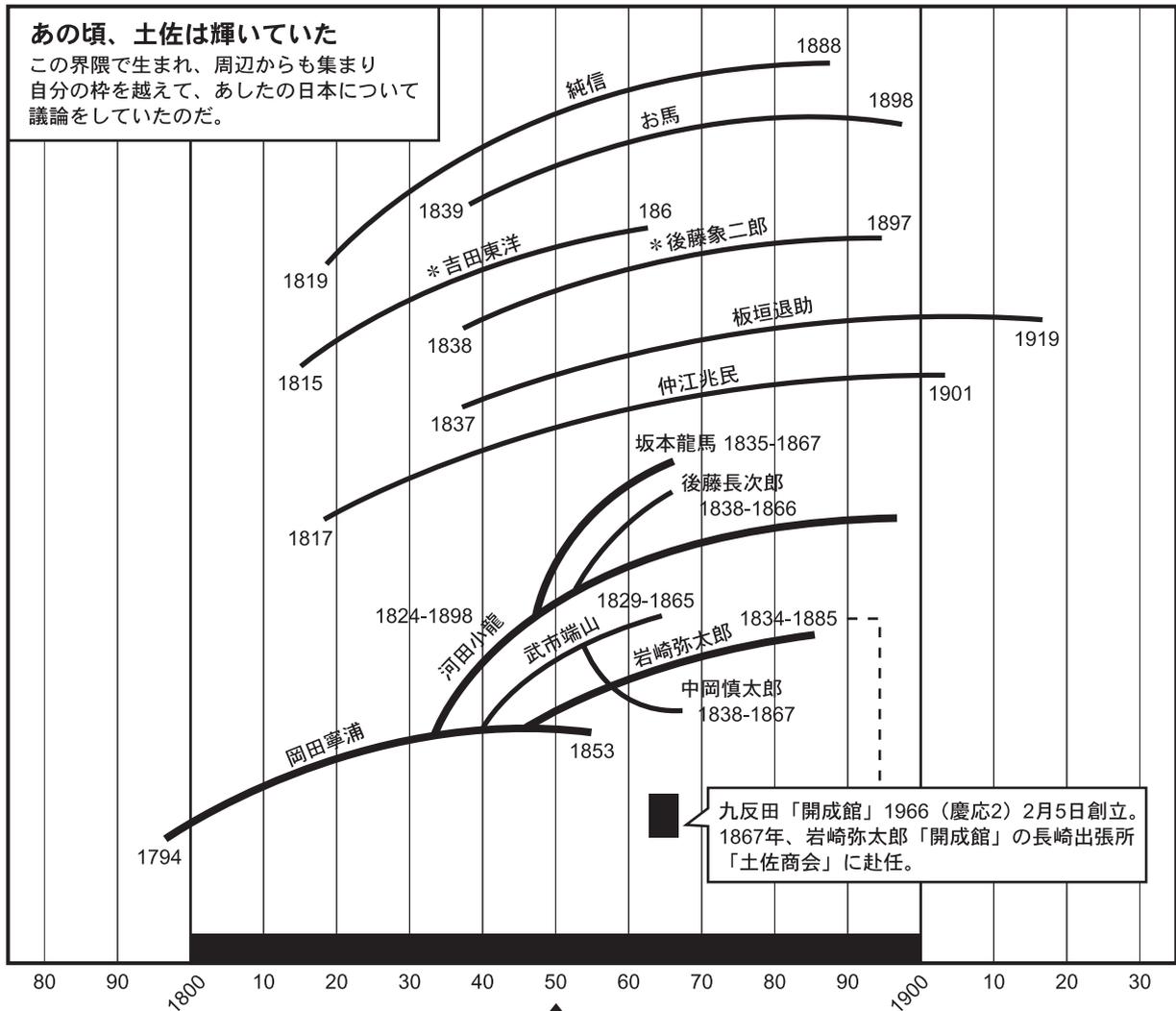
坂本龍馬と岩崎弥太郎

生い立ちも、立場も違う、2人の土佐人が凄いことをやった。
特に、長崎での2人の関係は短期間ではあるが、直接的にも間接的にも、
良くも悪くも、お互いに強く影響しあったと考えられます。

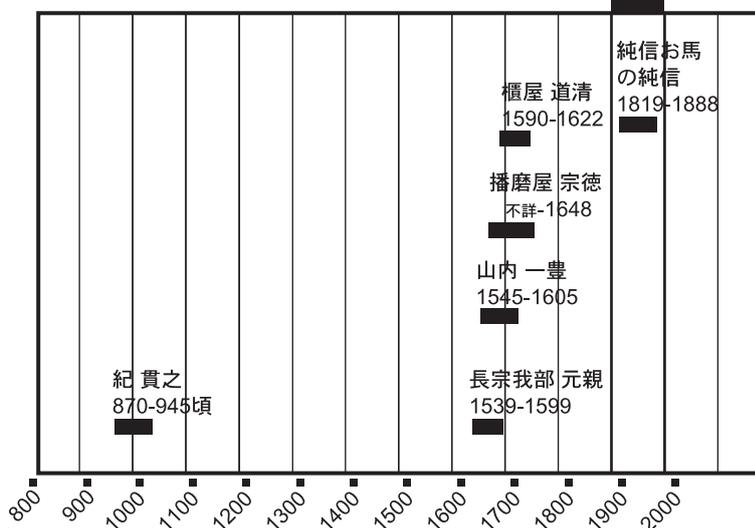
“土佐弁で 日本を変えた いい男”



開成館 あれこれ 6



■土佐の名は、
紀貫之（土佐日記）によって全国に知られたといえる。



ちょっと いい話 1



九反田地蔵尊

くたんだじぞうそん

腫もの除けの守り神
高知市九反田
かるぼーと南側の小路
隣接。

九反田地蔵尊

九反田に「称名寺」（しょうみょうじ）というお寺があった。

今は、金子橋のほうに移っているという。

長宗我部氏が、四国を遠征している時、讃岐の志度で阿弥陀仏一体を見つけ、それを持って帰り浦戸城に安置していた。それを見た、全国を廻国している称誉という上人が、これはその昔、藤原房前が行基につくらせた靈験あらたかな仏像であるという。

そうした話を聞き、阿弥陀仏を安置して「称名寺」というお寺を九反田に建てる。

関ヶ原の戦いに敗れた石田三成の小さい娘が、乳母に抱かれ、称名寺の住職を頼って土佐にやってきた。ところが、娘は7才の時に腫れ物が原因で命を落とした。

その後、この話は消えていたが、文政の頃になってここに出来た米蔵の床の下でどンドン音がする。何ごとだろうと掘あげてみると、首のない石地蔵と一つの石碑が出てきた。

これを本尊として祀ったのが「九反田地蔵尊」のはじまりとされている。

今は、地元の方がきれいに掃除をして、腫れ物の神様として祀られている。

この界隈は、堀川が発達していた。

1686年頃には、堀川の整備により菜園場のところが開通し堀川の交差点ができた。

この堀川の交差点により、東の松ヶ鼻の番所から郭中の東よりの堀詰めまで真直ぐに行けるし、江ノ口川（大川）に出て、お城の北側にも行けるようになった。

こうしたルートが完成し、城下への物流は全てこのルートを通っていたそうである。

横堀川の南側の納屋堀周辺は、塩乾物の販売が許されていたので、早くから賑わいが始まり、市場のような機能が発達し、約300年以上も前から市場的な賑わいがあった。

昭和5年には「高知市中央卸売市場」として生まれ変わり、昭和42年には手狭となり、弘化台に移転するまで賑わった。

鬼頭良之助は、腫物に病んで亡くなった石田三成の娘の供養のため、九反田地蔵尊の再建に力を貸す一面もあった。

地蔵尊の入口にある百度石に鬼頭良之助の名前があるのはそうした関係からである。

ちょっといい話 2



陽暉楼 ようきろう

明治5年、稲荷新地にて「陽暉楼」を創業。
現在は、「得月楼」にて営業。
はりまや町1-17-7

陽暉楼（得月楼）

藩政時代、土佐では芝居や料亭は厳禁されていた。

明治に入り、禁制が解かれると鏡川湖畔にお茶屋町・玉水新地ができ、妓楼や芝居小屋では毎夜三味線や鼓の音が鳴り響き、男女が歓楽する町として賑わった。

「陽暉楼」は、堀川の川下の方の稲荷新地に明治5年、松岡寅八（1850～1932）が創業。

すでにいくつか大楼があったが、当時としては斬新な企画を次々と開催した。会席（懐石）料理などの都風をはじめ一方、書画会を企画し文人墨客を集め土佐ではじめて墨画会を催したり、大広間に著名人の絵や書を掲げた。

また、劇場高知座の芝居弁当の仕出しを手がける等の独自の地盤を築いた。

高知座は、明治中期、旧中島町に開設された芝居小屋。歌舞伎の名優が来演。政談演説も開かれるなど、堀詰座とともに大正、昭和初期まで大衆娯楽の殿堂だった。

明治11年、中秋の名月の日、熊本城から凱旋した将軍谷千城の帰国祝いをおかねて観月会を開催。

その時、谷千城が「近水楼台先得月、向陽花木易為春」の詩から「得月楼」と命名。

以後、陽暉楼を改め「得月楼」となる。

毎年1月中旬から3月中旬頃にかけて咲く盆梅三百鉢余りを鑑賞しながらの「盆梅会席」は圧巻。二百年から三百年の歴史を持つこの盆梅は、日本一の呼び声高く全国各地から多くの方々が見えるという。

昭和初期の花柳界を描いた宮尾登美子氏の小説「陽暉楼」の舞台となったのが、当時、稲荷新地にあり隆盛を誇った「得月楼」である。

原作：宮尾登美子、脚本：高田宏治、監督：五社秀雄、出演：緒形拳、池上季実子にて1983年映画化。

ちょっと いい話 3



鬼頭 良之助

きとう りょうのすけ

本名：森田良吉
1873-1940
高岡郡宇佐村（土佐市宇佐）
出身。
かるぼーと南側の小路隣接。

鬼頭良之助

本名：森田良吉（1873-1940）
高岡郡宇佐村（土佐市宇佐）出身。

映画「鬼龍院花子の生涯」の鬼政親分こと、鬼龍院政五郎は鬼頭良之助がモデルといわれている。この界隈、築城とともに城下町づくりも進み、特に、治水利水面から早くから堀川が発達。横堀川の南の位置にある納屋堀周辺は塩乾物の販売が許されていたことから、早くから市場的な賑わいが発達し、約300年以上の間賑わってきたところである。

少年期大阪に出奔、遊侠の徒（小林佐兵衛）となるが、大正4（1915）年帰郷。九反田にて海産物商を開くかたわら、界隈の苦情処理を手がけ、やがて用心棒としての地位を固め、大勢の子分を養い、九反田界隈の顔役になっていった。また、宇田友四郎、川崎幾三郎、野村茂久馬等の地元財閥にも接近していたようである。

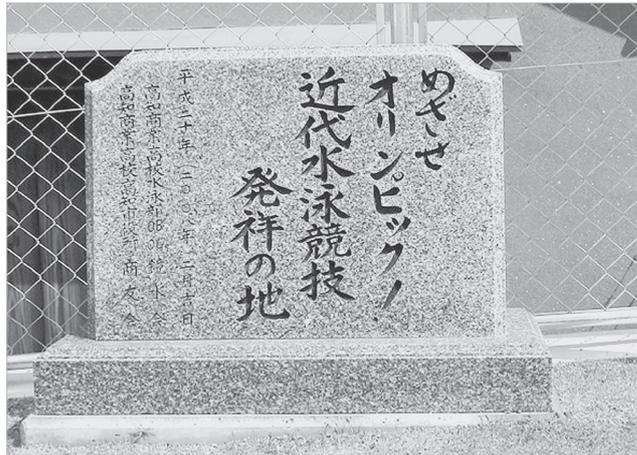
慶長5年（1600）関ヶ原の戦いで敗れた、石田三成の娘が乳母に抱かれ、この九反田にあった称名寺の住職を頼って土佐にやってきた。しかし、娘は7歳の時に腫物に病んで亡くなっている。鬼頭良之助は、その供養のため九反田地蔵尊の再建に力を貸したことから百度石に名があるのです。なお、入口の石灯籠には仲代達矢さんの名前がある。これは、映画「鬼龍院花子の生涯」で鬼政親分を演じたご縁で、石灯籠寄進となったのです。

映画「鬼龍院花子の生涯」（1982）は、原作：宮尾登美子、脚本：高田宏治、監督：五社秀雄、出演：仲代達矢、夏目雅子ほか。故夏目雅子さんが演じた、「あては、高知九反田の侠客鬼龍院政五郎こと鬼政の娘じゃき。なめたら、なめたらいかんぜよ」が、話題になった。映画「鬼龍院政五郎」に登場する侠客のモデルについて原作の宮尾登美子さんは、あくまでも創作ですといっている。

鬼頭良之助（森田良吉）には、いろいろな経歴がある。

- ・1931年、飛行家フランク・チャンピオンを招き曲芸飛行中、チャンピオン墜死。鏡川河畔に碑を建立する。碑には鬼頭良之助（森田良吉）の文字がある。
 - ・1932年、米騒動時には、宇田友四郎の助力で米の廉売という社会貢献をする。
 - ・土佐労働組合を安芸盛らと結成。
 - ・大相撲興業も手がける。
 - ・対立する侠客・玉龍との確執で入獄。
- 仮出所後の戦時態勢下では穏やかに暮らしたという。

ちょっといい話 4



北村久寿雄

きたむらくすお

1917-1996
水泳 15000m自由型
高知県金メダル第1号。
鏡川の雑喉場橋北側袂。

北村久寿雄

1932(昭和7)、第10回ロサンゼルスオリンピックで日本の少年がオリンピック新記録で優勝をした。世界中の新聞が大々的にその活躍ぶりを報道。日本国内では号外が出され、県内でももちろん大騒ぎとなり、多くの高知市民が菜園場にあった北村家までちょうちん行列をして祝賀ムードが盛り上がった。この優勝を記念して、昭和11年には高知県で初めて50mの公認プールが建設された。

高知市種崎町(はりまや町1丁目)に生まれ、小学校時代から鏡川の雑喉場(ざこば)橋附近に集まってくる旧制中学の選手たちに交じって水泳の練習に励んだ。

当時、新しい水泳技術の議論が盛んに行われていた。

高知商業高校に進学。水泳部に入部しクロール泳法を完成させ、全国大会で入賞するようになる。

1932年、オリンピック予選会1500mで19分54秒8で優勝。

第10回ロサンゼルスオリンピックに出場。19分12秒4のオリンピック新記録で優勝。

北村久寿雄氏の文章に「戦前の高知市で少年時代を過ごした人ならだれでも経験したことです。夏は一日中、鏡川で水遊びをしているうちに、小学校に上がるころには、もう一人前の河童に仕上がっているのです。(略)当時ざこ場附近には各学校水泳部が集まって練習していました…」とあるように、プールがなかった昭和初期、鏡川の雑喉場橋付近は市内の学校の水泳練習場。北村少年は、雑喉場橋と潮江橋の間の約500mを何回泳ぐかという「橋々何回」泳ぎを行っていたという。

こうした少年達の中からオリンピックでの優勝者が出た。

14才10ヶ月の少年がそれまでのオリンピック記録を40秒近くも縮めての優勝であった。

鏡川で北村少年を指導していた溝渕治助氏は、魚市場の職員で鏡川での毎日の練習時間には遅れなかったし練習にも厳しい人であったという。

溝渕氏は、大正末年から松山市内での水泳大会に数回出場。松山行きのバスのなかった時代であり、自転車夜を徹して松山に行き、プールの片隅で仮眠をとり、競技に参加したというエピソードの持ち主である。

当時の日本水泳連盟会長・末弘巖太郎氏(東京帝大法学部長)は、北村選手に「君は、プールでは世界一でも、プールを離れたらただの学生、世界一に恥じない学生、社会人を目指せ」と説いたという。二度の失敗を乗り越えて、三高、東大法学部に入学。

卒業後、三井物産に入社するがわずか2週間で入隊、ビルマ戦線に派遣される。22年復員。ジュネーブに駐在。ILO日本政府代表一等書記官として国際舞台で活躍。

帰国後、中央労働委員会事務局長、公共企業等労働委員会事務局長。

43年民間に移り、住友重機取締役、住友セメント専務等を歴任。

日本水泳連盟常務理事や日本マスターズ水泳協会会長等を努める。

何とか したいね 1



五台山展望台からの眺望

五台山展望台からの眺望は素晴らしい。天気の良い日には遠くの山際までよく見える。しかし、眺めの素晴らしさだけでなく、そこにちょっとした歴史的な情報が加わると眺めの価値はもっと高まるはず。

高知城の天守からは街中の建物があり鏡川河口近くは見えないが、この展望台からはよく見える。そして、城下町の構造がよく分かる。

遠くに高知城、緩やかなカーブの鏡川の河口、突き出したように見える九反田と中ノ島。

その右側が堀川。藩政時代には、この堀川の入口に城下3番所の1つ、松ヶ鼻番所があった。当時は、主要交通手段が船であったから、浦戸湾や鏡川からは勿論のこと、東の物部川からも西の仁淀川からもそれぞれの流域の産物は、野中兼山が整備した水路を通り浦戸湾に入ってきて、あの堀川をとお城下に入っていた。

下街には、播磨屋、櫃屋等の豪商が多かったこともうなづける。

鏡川の河口から、浦戸湾、桂浜、その沖合いに広がる大平洋という、この地理的な基本的な構造は、土佐藩が幕末に富国強兵、殖産興業を目指して開成館を創った、150年前とあまり変わっていない。

この地形に土佐人の精神のエネルギーの源泉があるといえるのではないだろうか。

この空間には、今開催中の幕末維新博のキーワードの〈大政奉還〉のルーツともいえる開成館跡があり（鏡川大橋袂の右側少し上辺り）、その歴史には土佐藩の進歩的な取り組みの歴史がある。

幕末の財政難の時、開成館を創り、藩の特産品を長崎に持って行き外国に売り、蒸気船や銃砲を買い、富国強兵・殖産興業を図った。その結果、西南雄藩にも肩を並べ、政治的にも発言力を持つようになった。長崎貿易には、モノの売り買いだけでなく、西洋文明も一緒に取り入れていこうという藩の強い想いがあった。

慶応2年から3年の間に、蒸気船・帆船を8隻、小銃を4,580挺、大砲を10門購入している。驚く数字である。渾沌とした幕末、何時起きるかも知れない内戦に備えてのことではあるが、教育や技術面での近代化も忘れていなかった。

この時の船舶や銃砲は、教育や技術面での近代化や政治的発言力の向上に繋がり、大政奉還後の明治元年に始まった戊辰戦争では大きな役割を果たしている。

こうした歴史をいろんな角度から掘り起こし、その情報が集積していくような仕組みをつくれれば、この五台山からの眺望は情報価値の高い空間となる。（この眺めには既に、日本的な歴史がある）

つまり、この景観を「土佐人の歴史遺産」として、観光客に高知に親しみ理解していただくための空間として活かしていくことは出来ないものだろうか。何とかしたいね。

五台山には、日本植物学の父といわれる牧野博士の「牧野植物園」、四国88ヶ所巡り31番札所の「竹林寺」がある。この展望台からの眺めに博覧会のキーワードである大政奉還の情報を高めていけば、行ってみたいくなるだろう。ここまでくれば、坂本龍馬記念館休館中でも、桂浜の波の音を聞いてみたいくなる。My遊バスがある。こうしたことが、滞在魅力や再訪魅力づくりにつながる。やっぱり、五台山展望台からの眺め、何とかしたいね。

小さな穴からの覗き窓

<p>遠くに高知城、 手前に丸山台。 城下町の海のと近くのこの空間は 大政奉還、明治維新、自由民権運動…。 こうした歴史の経緯をよく知っている。 清らかな鏡川の河口 穏やかな浦戸湾の奥 対岸には、河中のこうちから 高い智のこうちを提案した 竹林寺の僧・空鏡の五台山がある。</p>	<p>浦戸湾の入口には桂浜の龍頭岬があり その沖合いに広がる海は 長崎にも京にも、 メリケンやエゲレスにも 繋がっている。</p>
<p style="text-align: center;">五台山展望台からの覗き窓 展望台からの写真、短文等あなたのお気に入りをお送りください。</p>	

*B6サイズ（128X182mm）位の覗き窓のあるカードで覗くことにより、
展望台からの眺めの印象度アップを図る。

何とか したいね 2



鏡川南岸からの眺め

鏡川河口、かるぼーとの西側の通りを南に行き鏡川に架かる雑喉場橋を渡り、南岸の川沿いにあるランニングコースを少し東に行く。この辺りまでくると、街中と違い視界がグ〜ンと開けてくる。

東に、鉄塔のある五台山、弘化台市場、丸山台が見える。

丸山台は小さな島であるが、明治16年、板垣退助が外遊から帰った時、大宴会が行われたところとして有名。

鏡川河口には、白いアーチ状の鏡川大橋、その手前には九反田橋、水道の橋、雑喉場橋、潮江橋といろんな形の橋が架かっている。

雑喉場橋と潮江橋の間の鏡川は、オリンピックの1500mで優勝した北村選手が練習をしていたところ。昭和の始め頃は、高知にはまだプールがなく鏡川が練習場であり、北村少年は、ここで「橋橋何回」泳ぎを練習していたという。優勝当時の北村少年は、14才と10ヵ月。

緩やかな流れのある鏡川で練習をしていた少年が、オリンピック新記録で優勝した。世界中の新聞が大々的に報道した…。ただただ驚きです。

対岸には、唐人町、九反田、中ノ島が見える。

九反田は、開成館があったところ。

世界記録、開成館、自由民権運動…。凄いけど姿形がない。触知不能な魅力

鏡川河口の眺めの中に、数々の〈凄い〉が一緒にある。このことを、観光魅力として活かせないものだろうか。

何とかしたいね。

北村選手の世界記録。
開成館の金字塔。
こうした記録のいきさつを知れば知るほど
その偉大さを改めて思い知らされる。

鏡川を渡る風が頬をなでていく。
ああ、俺は一体何をしてきたのだろう。
何も、世界記録や金字塔でなくても
自分新記録でいいじゃないか。
そういつて、鏡川の風が慰めてくれる。

開けた視界の鏡川河口の眺め
特に、満潮時の眺めは素晴らしい。
そんなことを思いながら
対岸の九反田の方を眺めれば
見えないはずの
150年前の開成館が見えてくる。

幕末の土佐では
殿様も重役も脱藩浪人も
みんな自分の柁を越えて
新しい日本を求めて走った。
大政奉還には
土佐人大活躍の物語がある。
この物語の始まりは開成館にある。

何とか したいね 3



バス停・はりまや橋

高知観光の魅力は、高知の総合力で生まれるものだろうが、一方のガッカリの方はちょっとしたことの単体で全体イメージを引き下げる。

はりまや橋はガッカリと云われても、はりまや橋という名称には高知観光のシンボリックなイメージがまだまだあるので、極力ガッカリの累積をしないようにしたいもの。

- ・はりまや橋バスのりば（バス停）は、とさでん交通のものであろうが、ここにはいろんなバス会社のバスが発着している。

ここに発着するバス会社の一覧が欲しい。（観光客には不親切）

- ・バス停の柱に「公衆トイレ」（矢印）の表示があった、時代がっているのでは？

- ・各社の時刻表等を貼ってある掲示板が汚い。（セロテープ跡、ほこり等）

- ・この掲示板に「MY遊バス」の表示がなかった。

MY遊バスに乗って五台山展望台へ行った。途中、エンジン音のため車内の案内の声が聞こえにくかった。

また、運転席左上にある文字表示が「つぎ・まりま・」だった。ま、意味は分かるけどね～。

運転前の始業点検をしないのかと思う。

- ・とさでん交通は「3つの斉唱」運動という表現が電車にもバスにもあるが、上記要領の実態とチグハグがある。統合により高知のトップ企業になっているのだから、こんなチグハグは恥ずかしい。

理由はいろいろあるでしょうが、

何とかしたいね。





なぜ、坂本龍馬と後藤象二郎は会ったのか

Q：大政奉還は、ご存知のように坂本龍馬と後藤象二郎、この2人の活躍によって実現したといえます。

ところが、渾沌とした幕末、身分制度がはっきりしていた時代に、土佐藩・重役で開成館の最高責任者である後藤象二郎が、脱藩の赦免が出ていたとはいえ、坂本龍馬になぜ会ったのか？

A：それは、後藤象二郎の方から坂本龍馬に話し合いを申し込んだのです。

2人の出合は、開成館があったからこそ出来たのです。

というのは、2人が出会う1年前、慶応2年1月21日に薩摩藩邸で行われた薩長同盟に坂本龍馬は尽力しています。

犬猿の仲といわれていた薩摩と長州の同盟により、坂本龍馬は話題の人になっていた。（同盟により、幕府に勝てる最強軍団が誕生）

後藤象二郎は、そんな凄いことをした坂本龍馬という男の人脈や行動力、船を使つての輸送や商売に強い関心を持っていた。

一方、坂本龍馬の方は、後藤象二郎の土佐藩重役、開成館の最高責任者という地位です。

つまり、龜山社中はお金に困っていた。それに大政奉還を進めるためには、＜後藤象二郎なら、土佐藩の殿様にも、徳川将軍にも繋がる＞という読みがあったのです。

Q：土佐藩は、開成館の活躍で薩摩や長州と肩を並べるようになり、政治的な発言力も出来つつあった。だから、後藤象二郎としては、今後のために薩長同盟に尽力した坂本龍馬にぜひ会っておきたかった。

A：2人は慶応3年1月18日、長崎の料亭「清風亭」で会見することになりました。

しかし、2人は互いに憎みあってもおかしくない関係にあった。

というのは、後藤象二郎の叔父である土佐藩参政・吉田東洋は、思想的に対立関係にあった武市半平太の土佐勤王党の刺客に暗殺されている。

後に、勤王党の党首・武市半平太に切腹を命じたのは、後藤象二郎です。

一方の坂本龍馬は、武市半平太とは遠縁にあり、脱藩する前には土佐勤王党に所属していた。

ところが、2人はお互いにそんな問題には触れず、まるで古くからの友達であったかのように、新しい日本について語り合い、意気投合し2人は堅い握手を交わした。



当時の多くの方は幕府に対して

- ・外国との対等な交渉力がない
- ・国内の統治力が弱い。

もし、薩長が幕府を倒したとしても、次は薩長が政権を争うだろうと思っていた。

また、アメリカ、イギリス、フランス等の諸外国は、東洋の日本を支配下にと狙っている。

そんな時代に

日本国内で政権争いをすべきではない。



坂本龍馬と後藤象二郎の2人は、新国家を旨ざして先頭を走った。

大政奉還

開成館再発見

企画制作 路地裏大学 元吉勝美

監修 宅間一之

依光晃一郎県政調査報告書バックナンバー

- 平成28年 ○土佐打刃物製造業の後継者育成に向けた
「鍛冶屋の学校」創設プラン
- 平成27年 ○香美市における学生(団体)の活動実績・実態調査
○加工食品製造業における物流実態調査
- 平成26年 ○香美市集落調査
○香美市における小水力発電可能性調査
- 平成25年 ○香美市物部町神池地区地域活動調査
○高知県大学生の地域活動調査
○移住ニーズアンケート調査
- 平成24年 ○楽しく防災をめざした防災拠点づくりに関するアンケート
- 平成23年 ○香美市人口の推移

依光晃一郎後援会HPよりダウンロードできます。
<http://yorimitsu.gr.jp/hokoku/chosa.html>
複写・複製は可能です。積極的にご活用下さい

開成館
再発見

依光晃一郎 後援会

〒782-0051 高知県香美市土佐山田町楠目446-2

Tel. 0887-52-9222 Fax. 0887-53-2072

URL <http://yorimitsu.gr.jp/>

Email info@yorimitsu.gr.jp